

令和8年度 数学2学年 年間指導計画と観点別評価規準

学年目標

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式，平面図形と数学的な推論，一次関数，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力，数学的な推論の過程に着目し，図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，複数の集団のデータの分布に着目し，その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする態度を養う。

学期	月	単元(指導時間)	内容のまとめ	観 点 別 評 価 規 準			主な評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
一学期	4~6	式の計算(16時間) 連立方程式(17時間)	数と式	二元一次方程式と連立二元一次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解し，簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算，目的に応じた簡単な式の変形，具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり，式の意味を読み取ったりすること，簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。	既習事項と関連付けて，整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法や連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。それらを具体的な場面で活用することができる。	文字を用いた式や連立二元一次方程式のよさを実感して粘り強く考え，それらについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，小テスト，振り返りシート等
	7~10						
二学期	10~1	1次関数(19時間)	関数	事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを踏まえて一次関数を理解し，二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。	一次関数として捉えられる二つの数量について，変化や対応の特徴を見だし，表，式，グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	一次関数のよさを実感して粘り強く考え，一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
	2~3	図形の性質と合同(19時間) 三角形と四角形(20時間)	図形	多角形の角についての性質を見いだせることを踏まえて，平行線や角の性質を理解し，平面図形の合同の意味，三角形の合同条件，証明の必要性和意味及びその方法について理解している。	基本的な平面図形の性質を見だし，平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明すること，三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり，証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。	平面図形の性質，証明のよさを実感して粘り強く考え，平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
三学期	2~3	データの活用(8時間) 確率(6時間)	データの活用	四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味，場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解し，コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと，簡単な場合について確率を求めることができる。	四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，批判的に考察し判断すること，場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。それを用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。	四分位範囲や箱ひげ図，場合の数を基にして得られる確率のよさを実感して粘り強く考え，データの分布や不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，それらを活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
年間授業時数			105時間				